令和４年度　第１回学校運営協議会議事録

日　時：令和４年６月１８日（木）　１５：３０～１７：００
場　所：大阪府立中央聴覚支援学校　高等部会議室
参加者：井坂　行男（大阪教育大学教育学部総合教育系特別支援教育部門　教授）
　　前田　浩　（大阪ろう難聴就労支援センター　理事長）
　　良原　惠子（大阪府立校スクールカウンセラー　スーパーバイザー）
　　尾中　友哉（ＮＰＯ法人Ｓｉｌｅｎｔ Ｖｏｉｃｅ代表）
　　佐藤　てるみ（本校 PTA 会長）

１　開会
２　学校長挨拶
　委員自己紹介
３　学校の様子について
　　幼小中高各学部及び寄宿舎からの報告
４　議事
　①令和４年度学校経営計画について　学校長より説明

＜委員からの主な意見・質問及び回答＞
・学校経営推進費の審査を通過してよかった。
・スクールロイヤーを招いての研修では、いじめの定義について、法的な視点と教育上の視点は違うということを研修してほしい。
・高等部の人数が減少しているが、一般の高校では聴覚障がいに関する配慮や支援が難しい場合があることについて説明する必要があるのではないか。高等部の良さをもっと伝える必要がある。
→高等部の説明会は行っているが、多様な受け止め方があったり説明が足りない面もあったかもしれない。今いる生徒が生き生きと活動できることが大切で、それを中学生にアピールしていきたい。
・寄宿舎のある強みを活かせないか。
→府立に移管されて入舎のルールが変わったというのはある。ろう難聴の生徒たちのコミュニティとして寄宿舎は大切である。
・保護者としては、学校行事や避難訓練などの防災活動に、一人でも多く参加できるように協力したい。
・各学部の取り組みを構造化し、それぞれのつながりを見える化して連携していくのがよいのではないか。例えば中学部と高等部の集団活動や、小学部と中学部の SDG s での連携などを考えてほしい。
・「見てわかる」授業を「言語化」していくことが必要であるが、9 歳の壁についてどのように考えているか。
→小学部３～４年生から算数や国語が論理的になっていく。子どもたちの理解の速度やコミュニケーション方法は多様であるが、手話・指文字・動画などを活用し、わかりやす

いように取り組んでいる。単元テストや小テストで理解度を確認しながら、子どもたちの理解を深め、自信につなげたい。

・就労支援センターでの課題の一つに「時間を守れない」ことがある。社会人としてのマナーを身につける取り組みをロールプレイ等の方法でできないか。今後はキャリア教育や自立活動の内容などを報告してほしい。

5　事務局より連絡

6　閉会